



公益財団法人コカ・コーラ教育・環境財団

# 2022 事業活動報告書

**Activity Report 2022**

<https://www.cocacola-zaidan.jp/>



この事業活動報告書では、公益財団法人コカ・コーラ教育・環境財団が行った、2022年4月～2023年3月までの活動内容を記載しています。

2022事業報告書は下記URLからご覧いただけます。

<https://www.cocacola-zaidan.jp/summary/pdf/ActivityReport2022.pdf>

ごあいさつ

## 次世代を担う青少年の育成を目指して

当財団は、2007年6月、「心豊かでたくましい人づくり」を理念とし、コカ・コーラが事業を日本で開始して50周年を迎えることを契機に、財団法人日本コカ・コーラボトラーズ育英会(1970年設立)とコカ・コーラ環境教育財団(1994年設立)を統合し、多様な社会貢献活動を一元的に運営・推進できる母体として設立されました。5年目を迎えた2011年に「公益財団法人コカ・コーラ教育・環境財団」への移行申請を行ない、9月27日付けにて、内閣総理大臣より認定通知を受け、新たな一歩を踏み出しました。設立以来、次世代を担う青少年の育成と、彼らを取り巻く地域社会を支える人材の育成を目的とし、教育分野での事業を中心に継続して活動しております。

2020年に当財団は、コカ・コーラシステム全体が取り組むべきサステナビリティ戦略との整合性を図るため、また、国際社会共通の目標であるSDGs (Sustainable Development Goals/持続可能は開発目標)の推進を図るため、主要事業について見直しを行ないました。しかしながら、長引くコロナ禍のために、十分な事業活動が行うことができず、2022年度は、実施した主要な事業のレビューにより、改善点を年間計画の策定に反映させ実施いたしました。

環境教育事業「コカ・コーラ環境教育賞」については、「テーマ」「選考方法」「募集期間」「開催時期」などの見直しを行い、改善策をもとに事業の推進を図り、選考から表彰式までの一連の活動をリモート形式にて行ないました。

奨学支援事業は環境分野の学問について学び、研究する大学院生の採用がスタートしてから3年目を迎えました。この間、オンラインシステムを導入することにより、奨学生の皆さまとの円滑なコミュニケーションを図っております。



公益財団法人  
コカ・コーラ教育・環境財団  
理事長

佐々木 康行

## 公益財団法人コカ・コーラ教育・環境財団

< 理念 >

心豊かでたくましい人づくり  
(Healthy Active Life)

< 活動実績 >

参加者累計30万人以上

### 環境教育

地域社会、さらには国際社会において次世代リーダーとなる人材育成の支援を行っています。

コカ・コーラ環境教育賞  
1994年から28年間の応募団体累計 **2,380団体**

雨煙別小学校 コカ・コーラ環境ハウス  
2010年から13年間の利用者累計 **約10万人**

### スポーツ教育

青少年を対象に、次世代の育成と指導者育成

コカ・コーラ出前かけっこ教室/出前体育の授業などで  
2009年から9年間の参加者累計 **7,363人**

### 奨学支援

次世代を担う青少年の育成を目的に、大学生・大学院生へ奨学金を給付し、生活・教育支援を行っています。

1966年から57年間の卒業生累計 **2,533人**

### 災害復旧・復興支援

「コカ・コーラ 災害復旧・復興支援事業」(2021年より、復興支援基金から名称を変更)は支援地域、内容を拡大し支援事業を継続しています。

■ 太陽光発電・蓄電設備の設置助成設置校累計 **55校**  
■ ヤングアメリカンズ東北ツアー協賛参加者累計 **3,100人以上**  
■ スクールバスの寄贈 **9台**  
■ 米国・英国でのホームステイ研修参加者累計 **333人**  
■ 英語コミュニケーションスキル研修プログラム参加者累計 **1,563人**

2022年度活動一覧

2022年

- 4月 1日：奨学支援事業/2022年度奨学生30名を採用。  
8日：東京法務局へ定款変更登記申請。  
28日：い・ろ・は・す 水源保全プロジェクト  
22の自治体・非営利法人(NPO)の決定、前期分寄付金の送付。  
29日：内閣府へ主たる事務所の所在場所の変更届を提出。  
(2022年3月22日理事会、3月29日評議員会にて決議、承認)
- 5月 25日：理事会を開催。
- 6月 8日：内閣府へ2022年度事業計画・収支予算書などについて提出。  
20日：2021年度(2021.4.1~2022.3.31)事業報告および収支決算について監事の監査を受け、承認を得る。  
24日：理事会を開催。
- 7月 15日：評議員会を開催。
- 8月 2日：内閣府へ2021年度事業報告などの提出。
- 9月 1日：奨学支援事業/リリース配信・2023年度新奨学生募集開始。  
奨学生の応募用オンラインアカウント登録開始。奨学生の応募開始 (～10月31日)。  
16日：第28回コカ・コーラ環境教育賞/募集開始(～12月23日)リリース配信。  
環境教育賞特設サイト開設。
- 10月～12月 : 奨学支援事業 第1次(書面)選考、第2次(面接)選考を実施。  
奨学生予定者及び奨学生予備予定者を選定・決定。
- 10月 31日：「鳳鳴」No. 71 発行。  
31日：い・ろ・は・す 水源保全プロジェクト後期分寄付金の送金(22団体)。
- 11月 2日：読売新聞(全国版・社会面) 第28回コカ・コーラ環境教育賞/募集開始記事掲載。  
3日・4日：京都大学大学院 「超SDGsシンポジウム」。(参加：第27回環境教育賞受賞3団体)

2023年

- 1月 23日～：第28回コカ・コーラ環境教育賞、第1次選考実施(書面)(～2月6日)。
- 2月 10日～：大学ネットワーク(東海大学)環境ハウスにて体験学習実施(～15日)。  
22日：第28回コカ・コーラ環境教育賞、第1次選考会11団体をノミネート
- 3月 6日：第28回コカ・コーラ環境教育賞・事前告知:リリース配信。  
3月11日に受賞団体の発表と表彰式ライブの配信を事前告知。  
11日：第28回コカ・コーラ環境教育賞/発表・表彰式を開催。  
(対面&オンラインのハイブリッド形式、ライブ配信を実施)
- 14日：第28回コカ・コーラ環境教育賞・リリース配信。  
最優秀賞・優秀賞・大臣賞受賞団体決定およびライブ配信での表彰式を実施。
- 23日：理事会を開催。
- 31日：内閣府へ2023年度事業計画など提出。

## 第28回コカ・コーラ環境教育賞

2022年度は、「テーマ」「選考方法」「募集期間」「開催時期」などを見直し、さらに「選考方法」「応募フォーム」などのオンライン化を進めました。最終選考会・表彰式は、日本コカ・コーラ社本社ビルを会場に、リモートとオンサイトによるハイブリッド形式(新しい方式)にて、実施しました。

主催：公益財団法人コカ・コーラ教育・環境財団  
 協力：読売新聞社  
 後援：文部科学省、環境省



### ●実施スケジュール



### ●表彰部門

#### 【活動普及部門】

対象：①小学生およびその指導者  
 ②中学生およびその指導者  
 募集内容：今回テーマをコカ・コーラのサステナビリティ戦略「資源」領域の重点項目のひとつ「容器/PET」を選択し、SDGs項目の「つくる責任・つかう責任」としています。

#### 【企画・研究推進部門】

対象：高校生、高専生、大学生、大学院生およびそれら学生を活動主体とする非営利団体  
 募集内容：この部門においても「容器/PET」を選択し、今回テーマを「企業などが推進する取り組みの後押しにつながる企画・研究」としています。

## 最終選考会・受賞団体発表・表彰式



最終選考会

全国から21団体(活動普及部門:10団体、企画・研究推進部門:11団体)の応募が寄せられ、一次選考会でノミネートされた11団体から、最優秀賞(3団体)・優秀賞(3団体)・文部科学大臣賞・環境大臣賞の受賞団体が選ばれました。オンライン表彰式の模様は、ライブ配信され好評を得ています。

来賓：文部科学省 総合教育政策局地域学習推進課 青少年教育室室長補佐 山本 健司 様  
 環境省 大臣官房 総合政策課環境教育推進室 室長 河村 玲央 様

### ●表彰式



佐々木理事長による  
開会挨拶

活動普及部門 小学生  
最優秀賞発表

活動普及部門 中学生  
最優秀賞発表

環境大臣賞贈賞

田中常務理事による  
基調講演

文部科学大臣賞贈賞

企画・研究推進部門  
最優秀賞発表

選考委員長総評

## 第28回コカ・コーラ環境教育賞 受賞団体紹介

### 【活動普及部門/文部科学大臣賞】小学生の部

#### ◎最優秀賞

##### 富山市立西田地方小学校

活動地域：富山県富山市  
 主な活動内容：ごみ調査やごみ拾い活動を通して自分たちの力で校区の美化活動を進めるとともに、全校児童や地域の人々と連携して、ごみを減らしていく活動を展開。



#### ◎優秀賞

##### 富山市立呉羽小学校

活動地域：富山県富山市  
 主な活動内容：「だれ一人取り残さない SDGs 未来都市くれは」を目指し食品ロス削減や3Rの推進、リメイク品の販売等、SDGsへの関心を高め、行動の輪を広げていく活動を実践。



### 【活動普及部門】中学生の部

#### ◎最優秀賞

##### team 長崎シー・クリーン～世界遺産軍艦島が見える海を守ろう～

活動地域：長崎県長崎市  
 主な活動内容：世界遺産・軍艦島が見える海岸、砂浜、港、道路やその関連施設の美化活動を通して、野母崎地区の海の豊さを守り続ける、軍艦島が見える海の景観を守る等の活動を展開。



### 【企画・研究推進部門】

#### ◎最優秀賞/環境大臣賞

##### 大阪教育大学附属高等学校 平野校舎 ドリンクバー

活動地域：大阪府大阪市  
 主な活動内容：自動販売機でペットボトルドリンクを買う必要を無くし、ペットボトルゴミの排出量を減らすために、高等学校等にドリンクバー(ディスペンサー)を設置することを目指しています。



#### ◎優秀賞

##### 富山県立魚津工業高等学校 環境教育推進委員会

活動地域：富山県魚津市  
 主な活動内容：海洋プラスチック問題について、回収から活用への提案を目指し、海洋プラスチックなどを用いて汚染物を除去する水処理技術に活用することを目的としています。



#### ◎優秀賞

##### 大阪府立千里高等学校 ドリンクサーバー探求班

活動地域：大阪府吹田市  
 主な活動内容：ポイ捨てなどによるプラスチック問題を解決しようという研究。容器に使い捨てのペットボトルを使わず、自分の入れたい量を入れるという手法を取り入れることによって 飲料廃棄ロスも減らすことを目指しています。



環境教育事業

コカ・コーラ環境ハウス

「雨煙別小学校コカ・コーラ環境ハウス」は、北海道夕張郡栗山町の廃校を宿泊可能な施設として再生、非営利活動法人雨煙別学校が管理し、自治体、地域社会と連携をはかることにより環境教育の拠点として10年以上、利用され続けています。



雨煙別小学校コカ・コーラ環境ハウス「10周年記念誌」イメージページ

「雨煙別小学校 コカ・コーラ環境ハウス」は、北海道夕張郡栗山町の廃校を宿泊可能な施設として再生、非営利活動法人雨煙別学校が管理し、自治体、地域社会と連携をはかることにより環境教育の拠点として10年以上、利用され続けています。



Uenbetsu Shogakko Coca-Cola Environment House

「コカ・コーラ環境ハウス訪問体験ツアー」

「第28回コカ・コーラ環境教育賞受賞団体を対象に以下の3団体が訪問し体験しました。」

◎富山市立呉羽小学校（活動普及部門 優秀賞）

「ふるさと自然体験プログラム」

2022年7月26日～7月28日

【感想】 自然豊かな場所で自然体験活動をしたり宿泊したりすることで、自然に対する見方・考え方を深めることができ、多くの生き物が息する自然を守っていかねばならないと実感しました。



◎富山市立西田地方小学校（活動普及部門 最優秀賞）

「野外炊飯、川下り、ナイトハイク」

2022年8月21日～8月23日

【感想】 本体験は、子供たちにとって大変有意義なものでした。野外炊飯では、最初に生地をこね、野菜を切つてのせ、そして火を起こし焼くことまで子供たちが行い、調理の大変さを感じると同時に食べられることへの感謝の気持ちをもちました。



◎team長崎シー・クリーン（活動普及部門 最優秀賞）

「星空観察」「水辺の生物観察」

2022年8月25日～8月27日

【感想】 今回の研修では、さまざまな環境体験ができました。星空観察では、望遠鏡を使い月の細部や星々の形状を観察、流れ星を何度か目撃することができました。



雨煙別小学校 コカ・コーラ環境ハウス「10周年記念誌」発刊

雨煙別小学校 コカ・コーラ環境ハウスは、体験型宿泊施設として生まれ変わって10年。栗山町の豊かな自然の中で多くの人々に学びの場を提供し続けてきました。



●10周年記念誌は、A4サイズ、カラー、全52ページです。

学びの場として再生10年... Looking towards the next decade... This is a record of the remarkable support and cooperation of not only the Coca-Cola Educational & Environmental Foundation, but also of the people who were involved in which I would like to express my appreciation.

Commemorative book content featuring Yasuyuki Sasaki, Chairman of Coca-Cola Educational & Environmental Foundation, and text about the 10th anniversary.

「10周年記念誌」より

大学ネットワーク 京都大学主催「超SDGsシンポジウム」開催

開催日時：2022年11月4日～6日 開催場所：京都里山SDGsラボ「ことす」（京都京北）

環境教育賞選考委員である「浅利 美鈴」先生（京都大学大学院准教授・当財団評議員）のご提案により、京都大学主催の資源循環関連をテーマにした「超SDGsシンポジウム」において、第27回コカ・コーラ環境教育賞の受賞3団体が現地での参加やオンラインで、それぞれの活動を発表しました。



浅利 美鈴 先生 京都府出身。京都大学地球環境学学准教授。「ごみ」や「環境教育」「SDGs/持続可能なコミュニティ創出」などが研究テーマ。

- ◎只見中学校（福島県） 活動普及部門：最優秀賞/文部科学大臣賞＜現地にて登壇・参加＞
◎浜中町立散布小中学校（北海道） 活動普及部門：最優秀賞＜オンラインで参加＞
◎堺工科高等学校 定時制の課程（大阪府） 企画・研究推進部門：優秀賞＜オンラインで参加＞



東海大学「冬季環境保全学習」 2023年2月11日～2月15日

「環境マインドを持った次世代のリーダー」育成を目指し、コカ・コーラ環境ハウスを舞台に、フィールドワークを中心とした環境・教育プログラムを毎年、継続して実施しています。



コカ・コーラ環境ハウス前で記念撮影 北海道コカ・コーラボトリング(株)の工場見学

## 青少年に対する教育支援

コカ・コーラの奨学支援事業は、1966年に開始しました。コカ・コーラが日本で事業を開始して11年目にあたり、当時、日本国内では大学進学率が平均して25%にも満たない時代でした。1970年からは全国のポトラー各社と日本コカ・コーラが共同で、毎年全国から推薦された成績優秀な高校生に大学在学期間中、返済及び将来の就職等についても義務がない奨学金を授与しています。2021年からは、大学院生への支援も開始、応募要項に「資源」領域に関する選考とし、専門性、研究者の人材育成としました。この事業は向上心あふれる学生に、教育の機会を提供するものとして57年間、継続して実施しています。

57年間で合計2,533人の卒業生を支援しています。

2021年度に募集した2022年度奨学生30名が、新大学生、新大学院生(修士課程)として入学しました。2023年度入学する奨学生については2022年9月より募集開始、オンラインシステムへの登録者は581名となり、応募の中から大学生20名、大学院生10名、合わせて、30名を正式に採用しました。

### 奨学生の声

#### 入院・通院している子ども達やその保護者の心の拠り所である病棟保育士を目指して

東京家政大学 子ども支援学科  
太田 渚月



私は晴れて、志望校である東京家政大学子ども支援学科に入学しました。将来、病棟保育士として働き、入院・通院している子ども達やその保護者に対して心の拠り所になり、尊敬される存在になる、という目標があります。その為に大学では病児や障がい児、そのご家族への対応や精神的なケアなどの方法を専門的に学びたいと考えています。大学では病棟保育士としての実習(希望制)もあり、参加には一定以上の成績が必要です。実習に参加できるように勉学に励んでいきます。そして、保育園や幼稚園のボランティア活動にも積極的に参加して行くことで、保育士として働く際に求められるスキルを高めていきます。また、私には「カナダへナニー留学する」という目標もあります。ナニー留学とはベビーシッターとして、住み込みで働きながら留学できる制度です。ナニー留学することで、その国の保育の概念や在り方、そして文化や社会問題も学び、国際社会に対する在り方についても学んでいきたいと考えています。その為に保育士としての経験だけでなく英語力も必要となり、大学でのEnglish Lounge やオンライン英会話にも参加して、英語力の向上に努力していきます。さらに学科でスタディーーツという保育の短期留学(希望制)にも挑戦し、海外の保育について深く学び、視野を広げることで、より一人ひとりに適した保育を行える保育者へと成長できるのではないかと考えています。今回、頂ける奨学金を活用して充実させた大学生活を送り、2つの目標を実現できるよう努力して行きます。そして、まだ具体的なことはわかりませんが、いつか私のように奨学金を必要とする子ども達に、今回のこのご恩を送れるような人になります。

#### 森林から排出される温室効果ガス発生の原因物質、アミン類を研究

琉球大学大学院 理工学研究科 海洋自然科学専攻  
知念 勇魔



まず初めに、公益財団法人コカ・コーラ教育・環境財団において教育支援の活動を行っていただいたこと、また今回、奨学生に採用していただいたことに心より感謝申し上げます。私は今年4月から琉球大学大学院の理工学研究科、海洋自然科学専攻に進学しました。現在は今後2年間を通して行う研究内容の計画などを立てたり、新たに研究室に配属された学部4年生の研究について一緒に考えたりと、毎日を過ごしています。昨年は、自分自身が学部4年生で、教えてもらう立場でしたが、後輩に教える立場になりました。研究室に後輩ができるという初めての経験に自分の知識不足を痛感し不安になる気持ちもありますが、かけがえのない仲間たちと一緒に考え、学び、様々なことを吸収しながら有意義な研究生活を送ろうと考えています。大学院進学後もこれまでの地球環境に関する研究を継続して行います。昨年は「オゾン発生の原因物質がアスファルトから排出されているのではないかと」という仮説をもとに研究を行いました。オゾンは温室効果ガスであるだけでなく、人体に健康影響を及ぼすという点から問題視されています。そして今年度は、研究の舞台を都市部のアスファルトから、やんばるの森林に移します。森林からは温室効果ガスを発生させる原因物質であるアミン類が排出されることが報告されています。また、アミンは集中豪雨などの原因になることが知られており、近年、沖縄のみならず国内や世界中で問題となっている集中豪雨との関係性を明確にする必要があります。沖縄本島はやんばる地域を中心に木々が多く、森林やその周辺が大気環境に与える影響はとて大きいと考えられます。やんばる地域は、その自然の豊かさから国立公園にも指定されており、サンプリングや研究を通して環境保全につながる成果が得られることを期待しています。この研究を行うにあたり、サンプリングは雨風などの気象条件に左右されること、限りのある時間の中で自分にできる範囲は限られていることなど様々な壁が立ちあがることが考えられます。今回、本奨学金で経済的なサポートをしていただけることに感謝し、目の前の困難を一つずつ乗り越えながら充実した大学院生活を送りたいと思います。

## コカ・コーラ災害復旧・復興支援事業

「東日本大震災」を契機に被災された地域に対する支援を行う「コカ・コーラ復興支援事業」は、対象地域を「北海道胆振東部地震」「熊本地震」と拡大しながら実施しています。支援内容も地域の要望にあわせて、多岐にわたっています。

つなげよう、ハピネス



#### 公立小・中学校へのエコ支援事業 太陽光発電・蓄電設備の設置助成

☀️ 設置校 累計 **55** 校

岩手・宮城・福島県の公立小・中学校を対象に実施。同時に、子どもたちへクリーンエネルギーを通じた環境教育と、地域の緊急避難場所への防災対応機能の整備を支援しました。

#### 高校生・中学生対象 米国・英国でのホームステイ研修

🏠 参加人数 累計 **333** 人

岩手・宮城・福島県の高校生・中学生を対象に、グローバルな視野を持つ人材の育成及び教育支援の一環として、海外でのホームステイ研修プログラムを提供しました。

#### 公立小・中学校へのエコ支援事業 ヤングアメリカンズ東北ツアー協力支援

👤 参加人数 累計 **3,100** 人以上

米国の非営利団体「ヤングアメリカンズ」のメンバーが東北の子供たちとともに歌とダンスのショーをつくり上げるワークショップを応援。心の復興を支援しました。

#### 英語コミュニケーションスキル研修プログラム

#### 「日本を世界に紹介しよう」 地元の魅力を海外に発信できる人材を育成

参加人数 累計 **1,563** 人 開催校 累計 **36** 校

※記載の累計は、東北3県(岩手、宮城、福島)と九州2県(大分、熊本)の合計数です。

国際社会で活躍し、地域社会へ貢献する人材の育成を目指し、地方自治体や教育委員会、地元のNPOや大学、企業といった協働パートナーと連携して実施。

2017年から2020年までに岩手・宮城・福島の3県で30校、1,314名の高校生が参加し、外国人講師や留学生の指導のもと英語での効果的なプレゼンテーション方法や自分のキャリアについて学習しました。



#### <リモートプログラムの実施>

オンラインへ変更して実施。ウオームアップ、ファンアクティビティー講師や学生の出身国の異文化理解や、カナダやオーストラリア、ニュージーランドのネイティブの家族をホストファミリーとしてオンラインでつなぐ「バーチャルホームステイ」体験などのリモートプログラムを実施しました。



#### 「熊本地震」大分・熊本での復興支援活動

参加人数 累計 **249** 人 開催校 累計 **6** 校

2016年4月14日以降に発生した一連の「熊本地震」の被災地域への復興支援のため、熊本県、大分県の教育委員会と連携し、「英語コミュニケーションスキル研修プログラム」を2018年より開始。高校生へ英語を学習し将来について考える機会を提供し、2021年度までに、熊本県内の高校5か所、大分県内の高校1か所にて実施し、249名が参加しました。



#### 北海道胆振東部地震の被災3町を対象にした復興支援活動

2018年9月に発生した北海道胆振東部地震の被災地復興支援の一環として、震災により甚大な被害を受けた安平町、厚真町、むかわ町の3町を対象にスクールバスの寄贈を行っています。

・スクールバスの寄贈(合計:9台) 安平町 厚真町 むかわ町  
被災地域の保育施設等で利用されるスクールバスを寄贈。



## ◎2022年度「い・ろ・は・す 水源保全プロジェクト」助成先 22団体一覧

財団支部名	県	活動場所	団体名
北海道支部	北海道	札幌	札幌ふれあいの森友の会
みちのく支部	岩手県	花巻	豊沢川土地改良区
北陸支部	富山県	砺波	富山県(農林水産部森林政策課)
	石川県	石川県	公益財団法人 石川県緑化推進委員会
	福井県	福井県	公益社団法人 福井県緑化推進委員会
	長野県	長野県	長野県(長野県林務部森林政策課)
コカ・コーラ ボトラーズ ジャパン 支部	山梨県	北杜市	北杜市
	宮城県	蔵王	白石蔵王森林組合
	埼玉県	利根川源流	特定非営利活動法人 利根川源流森林整備隊
	神奈川県	厚木市森林組合	厚木市森林組合
	愛知県	恵那中野方水源の森実行委員会	恵那中野方水源の森実行委員会
	東京都	多摩地区	財団法人東京都農林水産振興財団 花粉の少ない森づくり
	茨城県	つくばね森林組合	つくばね森林組合
	京都府	京都	宇治田原町森林組合
	兵庫県	明石	兵庫県森林組合連合会
	鳥取県	大山	鳥取日野森林組合
	広島県	本郷	尾三地方森林組合
	佐賀県	基山町	佐賀東部森林組合
	熊本県	熊本	公益財団法人 阿蘇グリーンストック
	宮崎県	えびの	西諸地区森林組合
	愛媛県	愛媛県西条市小松町(小松工場)	いしづち森林組合
	沖縄支部	沖縄県	沖縄県

## 財団概要

名 称	：公益財団法人コカ・コーラ教育・環境財団
英 字 名 称	：The Coca-Cola Educational & Environmental Foundation
設 立	：2007年6月25日
公益財団法人移行日	：2011年9月27日
所 轄 行 政 庁	：内閣府
設 立 代 表	：縄英明
所 在 地	：東京都港区六本木6-2-31
役 員 一 覧	：理事長 佐々木 康行 常務理事 田中 美代子 理 事 東 由紀 理 事 小澤 紀美子 理 事 小松崎 和夫 理 事 菅野 耕自 理 事 高梨 圭二 理 事 津垣 修一 理 事 村上 秀徳 理 事 谷村 邦久 監 事 増田 正志 監 事 山田 洋一 評 議 員 浅利 美鈴 評 議 員 稲垣 晴彦 評 議 員 井上 龍子 評 議 員 荷堂 真紀 評 議 員 鎌形 浩史 評 議 員 小山 良彦 評 議 員 並木 茂夫 評 議 員 柊 巖 評 議 員 福田 圭祐 評 議 員 町田 伶子 評 議 員 米村 洋一 (2022年12月現在)